

いなつね短信 (鳥取県産材の利用促進に向けて)

第8号

ご挨拶

鳥取県木材協同組合連合会会長 前田 八壽彦
 毎日、暑い暑いと過ごしていましたが、空にはすっかり秋の雲が浮かんでおり、季節の移ろいを感じます。相変わらず、新型コロナウイルスは、つぎつぎに変異体として世界を襲い掛かり、私たちの生活環境を破壊しています。感染対策を当たり前のこととして、経済活動の活性化は待たなしの状況だと思えます。春先から、アメリカ発のウッドショックにより、ベイマツをはじめとする外材の輸入材が極端に減少し価格も高騰し、サプライチェーンの外国頼みは、常にリスクと隣り合わせである事を証明したと思えます。これを機会に、国産材の利用を確たるものにしなければならないと思えます。そのためには、国産材の良さ、利点をみんなで認識し、外材で賄っている製材品を国産材に切り替えていくことを業界の総意として、その方向づけの必要性を感じます。ウッドショックが解消したら、全てが雲散霧消してしまうので、今が重要だと思えます。

1 県内戸建て住宅着工戸数(木造)について

令和3年4月の住宅着工戸数は141戸で対前年比115パーセント、5月は164戸で対前年比155パーセント、6月は158戸で対前年比112パーセント、7月は143戸で対前年比92パーセント、7月末の合計は、606戸で対前年比133パーセントとなっています。

とっとり住まいる支援事業の交付申請は、8月末で329件、対前年比118パーセントで、7月末までの270件の戸建て住宅に対して45パーセントがこの支援事業の交付申請をしています。

本会で JAS 製品販売管理表を7月末までに234件を証明しています。対前年比113パーセントで、とっとり住まいる支援事業の交付申請件数の87パーセントが JAS 材を利用しています。

令和3年7月の着工戸数が対前年比に対し減少に転じました。8月の推移を注視しなければと思えます。

2 ウッドショックのその後について

世界的な木材高騰(ウッドショック)の起点の米国で、木材先物相場が急落しており、5月の最高値から5割安くなっています。しかし、米国の住宅需要はなお強く相場は高止まりするとの見方が多いなかで、最高値で決着した北米産の木材製品が今後、日本に順次入ってくるので、原料高に伴いメーカーが値上げするものと思われま。

一方、欧州の木材メーカーは米国の木材相場高に伴い、優先して米国に供給していましたが、米国の相場が急落したことで、対米輸出を減らし始めました。しかし、欧州の住宅需要も堅調で、挽き板(ラミナー)の日本の輸入量は依然少なく、集成材メーカーは価格転嫁し、住宅用集成材が最高値となっています。

このような状況で引き続き外材価格の高騰と製品不足は続くものと思われま。

3 ウッドショック対策臨時交付金について

令和3年6月県議会で県産材転換促進事業21,500千円のウッドショック対策臨時交付金が可決しました。

これは、ウッドショックが木材市場で県産材の原木のつれ高となって、製材所の製材品の単価アップをもたらしましたが、工務店等に浸透することが困難なことから、たちまち、製材所の経営環境の悪化をもたらしました。

県及び県議会でこの状況を説明し、緊急対応を強く要望しました。

この交付金は、各社の事業継続に活用することが出来て、製材所に活気をもたらしました。

4 パネル討議 女性が語る「地球環境を守る森と木のはなし」について

令和3年7月27日(火)鳥取市のとりぎん文化会館小ホールで、ととりの宝・森を守り木を使う会と鳥取県木材協同組合連合会の主催の「地球環境を守る森と木のはなし」のパネル討議を行いました。

パネリストは児嶋祥悟氏、石畑美幸氏、徳本昌子氏、渡辺昌子氏、池上祥子氏、西尾博之氏、前田八壽彦の皆さんで、1時間45分間討議をしました。

当会のパンフレット「私たちの暮らしと森と木のはたらき」を踏まえて、女性パネリストが日常生活で感じる疑問を投げかけ、森林が果たす役割や自分たちが出来ることについて意見を交わしました。

主な意見交換の内容を紹介します。

- ・森のはたらきを知り、放置竹林や荒廃林が環境問題に影響を与えることについて
- ・脱炭素社会を目指すための気候変動対策の二酸化炭素の削減と森林の関わりについて
- ・森を守るための手段と森林開発について及び木造建築の新技术と古民家の伝統木造建築について
- ・森林の魅力と木に親しむことを次代に伝えることについて

パネル討議の終わりにあたり、SDGsが全世界で取り組みが進むなかで、6項目の行動目標を会場で皆さんと共有し行動に移すことを決議しました。

<行動目標の内容>

- ・個人の消費活動や企業活動は、SDGsの観点をもって脱炭素社会の構築を目指そう
- ・二酸化炭素の吸収と固定化に有効な森林整備と新しい建築材料技術を活用し、非住宅系の建築を進めるなど木材の利用を促進しよう
- ・森林や山林を人と自然のふれあいの場とするため、拠点を整備し、広く観光資源として活用しよう
- ・里山の放置山林を整備し、山林の環境を守る活動を進めよう
- ・地元の木材と匠により発展してきた伝統木造建築の木づかひの技術と魅力を後世に伝承しよう
- ・子どもたちが木の温もりを感じられる施設環境を充実させよう



5 鳥取県林業事業体協議会について

令和3年3月18日に設立した鳥取県林業事業体協議会の活動を開始しました。

・5月28日(火)には、倉吉未来中心で第1回管理者研修会を開催しました。来賓に厚生労働省鳥取労働局 高橋労働基準部長を迎え、鳥取県森林・林業振興局 池内局長の「森林・林業を取り巻く情勢について」の講演と、鳥取県森林・林業振興局林政企画課の「林業事業体が活用できる補助制度」の説明を聞きました。引き続き、実務者研修会の年間スケジュールを決定しました。

・6月28日(月)鳥取会場と29日(火)倉吉会場で鳥取労働局 山田健康安全課長他のお話しと、林業・木材製造業労働災害防止協会 山本安全管理士から「災害事例研究(災害対策のポイント)」の研修会を行いました。山本講師は、一方的にお話しするのではなく、研修生の考え方を発表させるなど有意義な研修会になりました。

・また、8月23日(月)鳥取会場、24日(火)倉吉会場で(株)森林環境リアライズ石山専務取締役の講演とVRシミュレーター体験の研修会を開催しました。

石山講師は、厚生労働省の委員を務められており、「近年の林業災害の発生状況及び改定林業安全作業の基準」の講演は、的確な事故原因の指摘を歯切れよくお話しされて、時間の経つのが早く感じられました。また、VRシミュレーター体験会は、伐木作業を実際にやってみることが出来るので、現場の危険性を実感することができました。当日のアンケート調査も好評

でした。これからも斬新で役立つ研修会を計画したいと思います。

なお、実務者研修会は、県、森林組合等に広く参加を呼び掛けていますので、是非ご参加ください。

6 林業・木材製造業労働災害防止協会鳥取県支部について

昨年は23件の労働災害が発生したことを深刻に受け止めて、関係機関・団体の皆様と一緒に労働災害抑止を呼び掛けています。令和3年7月末で8件が発生しています。前年同月は18件でしたので、減少傾向ではありますが、ゼロ災を目指して後半の4か月を頑張ります。

当支部は労働安全衛生法に基づく特別講習等を行いますが、長年にわたり講師を務めていただいた門脇さんが今年5月にご高齢のため勇退されました。

今後お世話になります講師の皆様をご紹介します。

○山本福壽さん

智頭町 元鳥取大学教授 智頭の山人塾 塾長

○和久利正義さん

米子市 元農業機械メーカー勤務 技能検定農業機械技能士1級

○徳安正之さん

鳥取市 元県職員 県木連参事兼林災防事務局長

今後の特別講習の予定について

・刈払機講習 令和3年10月13日

倉吉会場 伯耆しあわせの郷

・チェーンソー講習 令和3年11月10日～12日

倉吉会場 伯耆しあわせの郷

なお、来年度4月以降は、鳥取県林業試験場内の会議室とチェーンソーの屋内練習場でチェーンソー特別講習を行います。現在、会議室の拡張・改修工事中です。また、チェーンソーの屋内練習場は、建築設計業務を完了し、今年9月工事発注予定です。

7 トッキーノ館ととっとりピノキオ館の利用状況について

県から指定管理者として管理・運営を任されて、3年目となりました。県民への知名度もかなり浸透したように感じます。お客様は、保護者に連れられた2歳～5歳の子どもたちです。子どもたちは、自由な空間で、子どもたちの自由な発想で遊べる積み木、玩具、滑り台等で遊んでいます。また、木工工作も人気で子ども会、団体で賑わっています。

今年4月から8月末で、2084人のお客様が来られており、対前年比642人の増加となっています。引き続き、皆様に喜んでいただけるよう管理・運営に努めたいと思います。

【いなつね短信発行者】鳥取県木材協同組合連合会
〒680-1203 鳥取市河原町稲常 113 21世紀の森
トッキーノ館内 電話 0858-71-0524 FAX0858-71-0529